

## 令和6年度 長野県箕輪進修高等学校入学式 式辞

校門の桜も咲き始め、本格的な春の到来と生命の息吹を感じる季節となりました。この佳き日に、同窓会、PTAをはじめご来賓の皆様のご臨席を賜り、また保護者の皆様のご列席をいただき、ここに令和6年度長野県箕輪進修高等学校入学式を挙行できますことは誠にありがたく、厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。義務教育を終え、晴れの高校入学を迎え、感慨もひとしおかと拝察いたします。

さて、ただいま入学を許可いたしました、78名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。教職員一同、心より皆さんを歓迎いたします。

本日より皆さんはこの箕輪進修高等学校で新たな高校生活を始めます。今皆さんは新しく始まる高校生活に期待と不安でいっぱいのことと思います。皆さんの高校生活のスタートにあたり、私から「『情報』と『心』と『いのち』を大切にすること」について伝えたいと思います。

みなさん、情報とは何でしょうか。情報とは知らせのことです。情報の原始的な形はのろしと言われています。敵の襲来を仲間にいち早く知らせるためです。まさしく生存に関わる手段でした。その後、情報手段は伝書鳩や飛脚による手紙となり、そしてテクノロジーの進歩とともに、今皆さんが使っているスマートフォンへと発達してきました。現代の生活は全てが情報から成り立っているといっても過言ではありません。

情報の発達是我たちの生活に大きな変化をもたらしました。

1つめは人間関係の変化です。それぞれの人が一人一台のスマートフォンを持ち、さらに丸4年続いたコロナ禍によって、対面による関わりから、個人化・孤立化しやすい状況へと変わりました。意識して相手と直接コミュニケーションをとらないと、人間関係がもろくなってしまいます。

2つ目は情報が心・精神への攻撃の手段となることです。残念ながら今の日本の社会には、目立つ個人を徹底的にバッシングする傾向があります。そこにあるのは、「みんなと一緒にいたい」という潜在的な不安感なのかもしれません。そんな風潮がまん延していくと、社会はどんどん狭く生きづらい場所になっていきます。「いのち」を守るために発達してきたはずの情報が、安心ある生活を壊し、生きる気力や「こころ」まで奪っていきます。

皆が平和で共存していくためには、多様性を受け入れる心が必要です。情報が発達しても直接顔を合わせ、優しい笑顔と思いやりのある言葉で人に接することが、人間関係構築の大

切な第一歩であることに変わりはありません。

「おはよう」、「それすごくいいね」、「ごめんね」、「なにか手伝おうか?」、「ありがとう」

ぜひ皆さんには、情報を上手に使いこなしつつ、明るい挨拶と相手を認め、思いやる言葉がけを心掛けてほしいと思います。

本校は平成20年4月に南信地区唯一の多部制単位制高校となり、その利点を活かしながら、生徒一人ひとりのライフスタイルや学習進度、多様な進路希望に対応した柔軟な教育活動を展開しています。学校目標を「一人ひとりが互いを認め合いながら、自分のペースで意欲的に学び、社会で自立し活躍できる力を育てる」と定め、あらゆる教育活動の基盤にしています。この箕輪進修高校で、さまざまな出会いや活動を通して、一人ひとりが、互いを認め合いながら「情報」と「こころ」と「いのち」を大切にすることを願っています。

皆さんが、心身ともに健康で、これから始まる高校生活が希望にあふれ、日々充実した高校生活を送ることを、心より期待して式辞といたします。

令和6年4月5日

長野県箕輪進修高等学校 校長 棚田 美穂